

弁当男子の実態



「お弁当」は節約の救世主??

昼食の摂り方について、未婚、既婚両方の男性をみてみると、1ヵ月に自分の裁量で自由に使えるお金（いわゆるお小遣い）が少ない人ほど、手作りのお弁当（家族が作ったものを含む）持参率は高く、お弁当が世の男性たちにとって、節約の一手段であることがみえてきました。

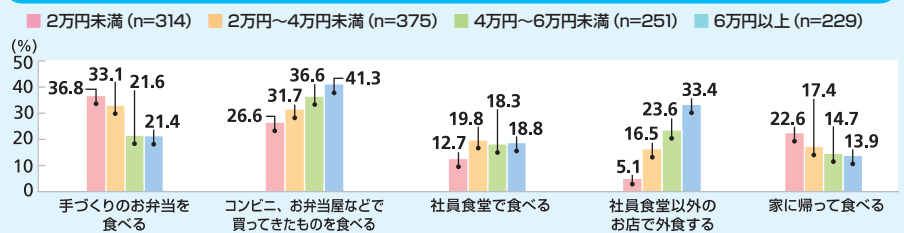
そして、最近自分でお弁当を作る「弁当男子」が話題になっていますが、手作りのお弁当持参派の男性（未婚：16%、既婚：35%）が月に1度以上自分でお弁当を作る割合は、未婚では31%、既婚では14%でした。決して多くはありませんが、「弁当男子」は未婚、既婚とも全体の5%程度存在しました。

また、そのお弁当をつくるきっかけ

について聞いてみると、「お金のないとき（節約のため）」は作るきっかけトップ3に入っておらず、「日常的に」「気が向いたときに」等が多くあげられま

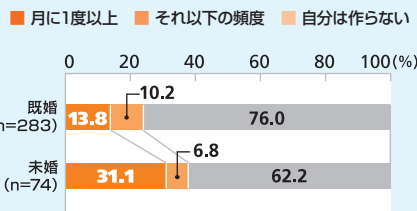
した。節約の一手段としてお弁当の持参はするけれども、節約のために自らお弁当作りを行う人は少数派というのが実態のようです。

昼食の摂り方とお小遣いの金額（2009年）



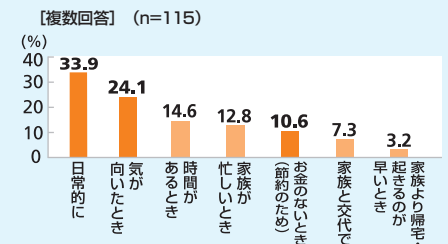
自分でお弁当を作る頻度

（手作りのお弁当を食べている人）（2009年）



お弁当を作るきっかけ

（月に1度以上自分でお弁当を作る人）（2009年）



考察

夫の家事・料理の実施率は大幅に増加していました。“男も料理の時代”の始まりであった1997年にもみられていた料理を楽しむ意識は、より高まってきており、それがレポートの広がりや腕前の上昇に繋がっていると考えられました。ただ、レポートに関

しては、1品で1食となるようなワンディッシュメニューが中心で、和食を敬遠する傾向がみられました。男性が和食にチャレンジすることは、和食の活性化にも繋がり今後の伸びしろとして期待されます。一方で、今回の調査ではコスト・手間の軽減、お買い得情報への関心といった生活者としての意識もみられました。これらのことより、2009年の現在はすでに“男性も料理の時代”となってお

り、その質が趣味から日常への移行期にあると位置付けられます。

また、20代では、料理を覚えるのに母親や学校教育の影響を受けていたり、和食を作れるようになっていたり、特徴的な実態が見られました。今後、未婚率が高い20代が結婚し、自分の家庭を持つようになることで、“男も料理の時代”がさらに新たなステージへ突入することが予測されます。

調査概要

1997年

調査対象：男性 20-60代 既婚
 サンプル数：384名
 41名(20代)、93名(30代)、126名(40代)、64名(50代)、60名(60代以上)
 実施期間：1997年10月
 調査方法：郵送調査

2009年

調査対象：(P2-7) 男性 20-60代 既婚、(P8) 男性 20-60代 未・既婚
 サンプル数：1248名
 (各年代とも未婚、既婚の順に) 186名、40名(20代)、119名、160名(30代)、61名、179名(40代)、50名、207名(50代)、34名、213名(60代)
 実施期間：2009年7月3日～7月5日
 調査方法：インターネット調査

*レポートには調査回答者の年代構成を日本の実年代構成にあわせて補正したデータを使用。

本レポートの文章・データ・イラストを許可なく複写、複製、転載することを禁じます。

日清オイリオグループ株式会社

■お問い合わせ先

生活科学研究室

http://www.nisshin-oillio.com

ホームページでは、バックナンバーをご覧ください。

〒104-8285 東京都中央区新川1-23-1 TEL.03-3206-5218



揮発性有機化合物を含まない大豆油の Non-VOCインキを使用しています。